

「縁・えにし」のよろこび

各法要とも、コロナ対策を徹底して開座しました！

～春季・彼岸会～（3月18日）※昼席のみ

雨模様でしたが、多くのご参拝をいただきました。
ご講師の二木文生師（山口・下関市）は、住職がお世話になって
います、布教研究会「法水会」の先輩です。法話のイロハをいつも
ご指導いただいています。



～永代経法要（4月19, 20日）～ ※昼席のみ

春風薫る中の2日間、コロナ対策を徹底して開座しました。
ご講師には、木下明水師（熊本・八代市）をお迎えし、阿弥陀
さまお慈悲いっぱいのご法話を賜りました。
なんとご講師は、元芸能人！「コントグループ・ジョビジョ
バ」のメンバーです。



～「2021・2022年仏教婦人会総会・春の法座」と 「第7回初参式」（5月14日）～

久々に対面での総会を開催することが出来ました！
役員任期が2年間のため、総会は2年ごとに開催しています。2年
前は、コロナの影響で書面での総会でした。今回は、会員皆さまに
お参りをいただき、賑やかな時間となりました。
前三役様・前各地区役員様には、コロナ禍の厳しい中にもサポ
ートいただき感謝申し上げます。コロナ禍をきっかけに、今後の当会
のあり方等を話し合えたこと本当に良かったです。引き続きのお支
えをお願い申し上げます。



前婦人会会長

また、新三役様・新各地区役員様には、今後ともサポートをお願
い申し上げます。会員一丸となって、コロナ終息を願いつつ活動し
て参りましょう!!



新三役

また、同日の午前中に、4年ぶりの「初参式」を開催しました。
「初参式」とは、阿弥陀さまのご尊前において、いのちのつなが
りの中に恵まれた“いのちの誕生”をよろこぶ尊い仏縁です。
この度は、3家族の皆さまに、お参りいただきました。皆さま、
ご参加ありがとうございました。



阿弥陀さまからのお手紙

『人生の意味』

松月 博宣（糸島市 海徳寺）

「あなたは何のために生きていらつしやいますか？」
突然に失礼しました。この質問、日ごろあまり考
えることはありませんから、おそらくとまどつてら
つしやるとおもいますが…。

どうです？ 考えておわかりになりますか？
七高僧のお一人、曇鸞大師は『往生論註』の中で、
『「蟬は春秋を識らず」といふがごとし。この虫あ
に朱陽の節を知らんや。』と述べられます。蟬とは
蝉のことで、朱陽の節とは夏のことです。「夏に生ま
れ夏の間に命を終えていく蟬は、生まれる前の春と
命終えた後に訪れる秋を知らない。その蟬自身が、今
生きているこの季節を夏であることをなぜ知ろう
か？」と、生まれる前も、死んだ後のこともわから
ないものには、今生きていることの意味はいくら考
えてもわかりはしないのだと、おっしゃっています。

考えてもわからないから、せいぜい「死んだらお終
（しま）いだ」などと開き直って生きてしまおうのが、悲
しいかな、私たちなのです。ならばどうしたらいいの
か？ そうです、わからないことは聞けばいいので
す。聞くしかないのです。じゃあ何に聞くかとい
うと、私の命を貫き通す、永遠のいのちの聞くの
です。その永遠のいのちを、私どもは「無量寿」と言
い慣わしております。私たちが浄土真宗のみ教えを
聞くということは、無量寿によって知らされる私の
生きるこの意味を聞くと言えます。

親鸞聖人がお作りになったお正信偈の冒頭の、「帰
命無量寿如来 南無不可思議光」の一行二句にこそ、
私たちの宗教が言い尽くされていると言えます。こ

の二句は、「命の短い私は、何のために生まれて、何
のために生きていくのかわかりません。その私は、無
量寿の仏さま、不可思議の仏さまによって、その命の
意味のお聞かせに預かりました。仏さまのいのちを
受け入れ拠り所としながら、この人生を生きてゆき
ます」と、親鸞聖人がご自身の宗教を宣言されたこ
ろです。

その無量寿の仏さまについて語られたお釈迦さま
のお説教が、『仏説無量寿経』です。この経で本願と
名号が説かれるのですが、そのご本願に私のいのち
の意味が誓われていると聞かせていただくのです。
そして本願がはたらく姿である名号によって、この
人生を生きてゆくのです。

では、その本願には私のいのちをどのよう誓っ
てくださっているのかと申しますと、「煩惱だらけで
生きているあなたを、そのままに修正も訂正もせず、
私の国であるお浄土に迎えとり、仏の覚りを開かせ
ます。どうかこの私の真（まこと）のこころを信じ歓
んでくれよ。あなたの命は死んだらお終いではな
い。わが国であるお浄土に生まれるいのちと、どうぞ
願っておくれ。あなたの人生をお浄土に向かう人生
そのものとしてから、安心して私の名である南
無阿弥陀仏を称えながら、浄土への人生を力強く歩
みきってほしい」と、誓い願ってくださっているの
です。この誓いが、私に南無阿弥陀仏の名号として届
いているのです。ですから、私たちはこの人生を「お浄
土に生まれて仏の覚りを開く人生」と聞いてゆくこ
とができるのです。

よかったですね、死んだらお終いの命ではなくて、
もし「死んだらお終い」の人生ならば、生きているこ
とに何の意味を見出せるでしょうか？ 私たちは当
面の目的を持っては生きてゆくことはできるので
す。しかし、死を前にしたとき、それら当面のものは
すべて空しくなってしまうのではないのでしょうか？
意味の見出せない人生のことを「空しい人生」と言う

のです。せっかく頂戴した命です。空しく過ごすこと
なく、この人生をお浄土に向かって力強く生きてゆ
くところにこそ、空しからざる人生が開かれるので
す。

私には、この人生を空しく過ごさせないと喚び続
けてくださる「南無阿弥陀仏」が、このように聞こえ
てまいります。背伸びしなくてもいいよ。卑屈になら
なくてもいいよ。

背伸びするとしんどいよ。卑屈になると惨めだよ。
あなたはあなたの身の丈で生きてほしい。そして、で
きることを精一杯尽くしたらいいんだよ。一生懸命
になっても、どうにもならないこともある。そのとき
は「ごめんさい」と謝ればいい。一生懸命、精一杯
尽くしても、十人が十人あなたのことを褒めてはく
れない。中にはとやかく言う人だっているだろう。で
もその言葉に振り回されなくていい。なぜなら、あな
たのことをとやかく言う人は、決してあなたの人生
の責任を取ってくれない人ではないんだから。あなた
はあなたの人生を自分の足で生きてゆかなければな
らないんだから。

また精一杯努力しても、思い通りになるとは限ら
ない。成功することもあるだろうし失敗することもある
だろう。時には挫けてしまうことだってあるか
も知れない。でも、それをあなたのご縁の人生と受け
とめて生きていったらいいんだよ。あなたのその人
生をそのままを、お浄土に生まれる人生に私がついて
いるから、あなたは安心して「南無阿弥陀仏」と称え
ながら、なすべきこと、できることを、精一杯尽くし
ながら、その人生を生きてきてほしい。大丈夫だから
ね。

ご本願のはたらく姿である名号「南無阿弥陀仏」を
いただいで、私たちはこの人生を生きてゆくのです。

「真教寺・秋季彼岸会」

9月16日（金）13時30分～15時 昼席
※ご講師は、この法話を書かれた松月博宣師です。

